

# 大阪府

## 堺市二次医療圏「地域医療構想」 現状と今後の方向性

2018年8月1日

大阪府堺市医療・病床部会

# Contents

## 1 堺市二次医療圏の概要

- (1) 今後の医療需要の見込み
- (2) 医療体制の概要
- (3) 診療実態の分析の結果

## 2 高度急性期から急性期(急性期一般※)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) MDC別診療実績の推移(DPC)
- (4) 現状と課題のまとめ

※急性期一般入院基本料 (旧7対1、10対1)

## 3 急性期(地域一般※)から回復期の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

※地域一般入院基本料 (旧13対1、15対1)

## 4 長期療養(慢性期)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

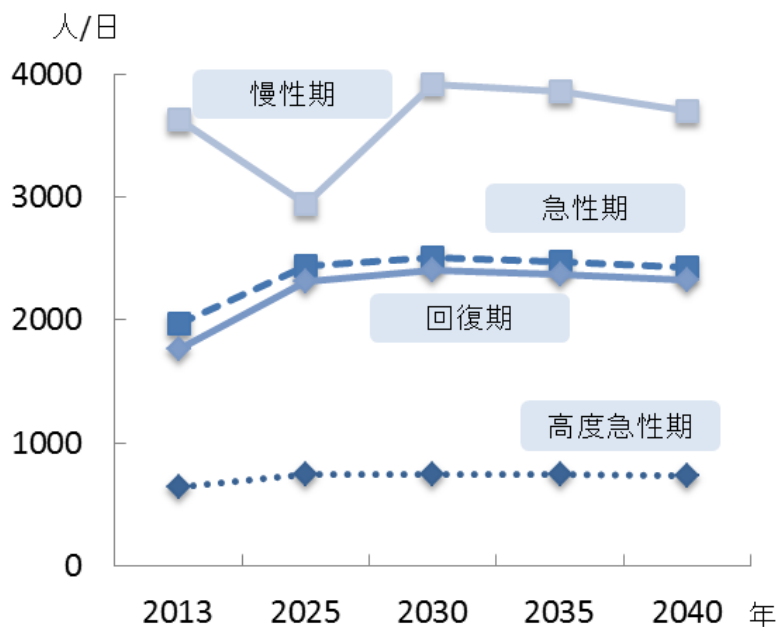
## 5 将来のあるべき医療体制に向けて

- (1) 2025年に各病院が検討している  
医療機能・病床機能
- (2) 目標とする指標(案)

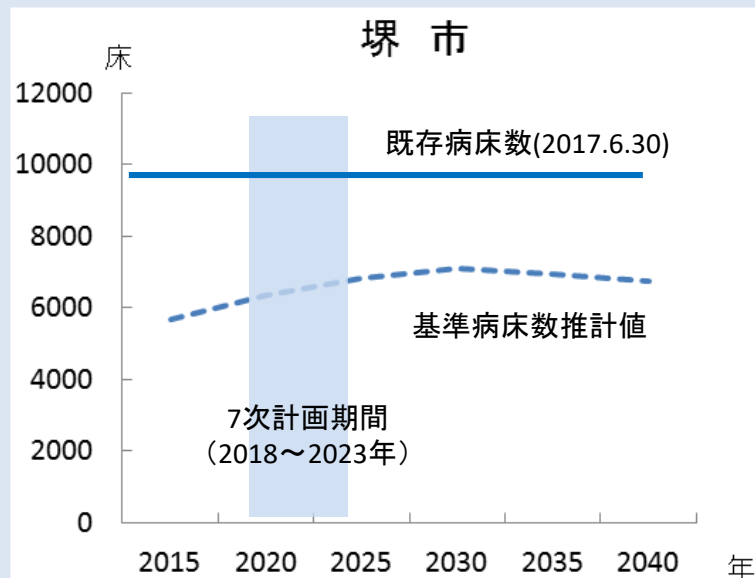
# 1 堺市二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

堺市二次医療圏では、今後、2030年をピークに医療需要(特に、急性期と回復期)が増加する見込みである

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数の将来見込みでは、2030年においても、既存病床数に達しない見込み。

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	646	744	1.15	749	1.16	739	1.15	731	1.13
急性期	1,973	2,440	1.24	2,513	1.27	2,476	1.26	2,428	1.23
回復期	1,763	2,314	1.31	2,408	1.37	2,373	1.35	2,323	1.32
慢性期	3,631	2,945	0.81	3,913	1.08	3,857	1.06	3,697	1.02
合計	8,013	8,443	1.05	9,583	1.20	9,445	1.18	9,179	1.15

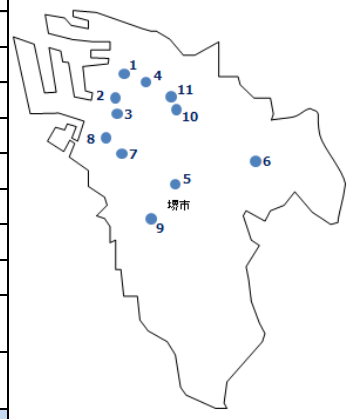
参照：第7次大阪府医療計画  
一部改編

# 1 堺市二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要①

堺市二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が1病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が5病院である

## ●主な医療施設の状況

所在地	病院名	新公立病院改革プランにかかわる補足調査対象	公的医療機関等2025プラン対象病院	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院	
堺区	清恵会病院					○												
	耳原総合病院		○		○	○			○	○								
	堺市立重症心身障害者(児)支援センター						○											
	大阪医療刑務所病院						○											
中区	ペルランド総合病院		○		○	○			○				○					
東区	社会医療法人頌徳会日野病院					○												
西区	堺市立総合医療センター	○			○		○			□	○	○			○		○	
	社会医療法人ペガサス馬場記念病院		○		○	○												
南区	医療法人恒進会泉北陣内病院							○										
北区	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院		○		○		○			□								
	独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター		○				○			○						○	○	
合計		1	5	0	5	5	5	0	2	5	1	1	0	1	1	1	2	



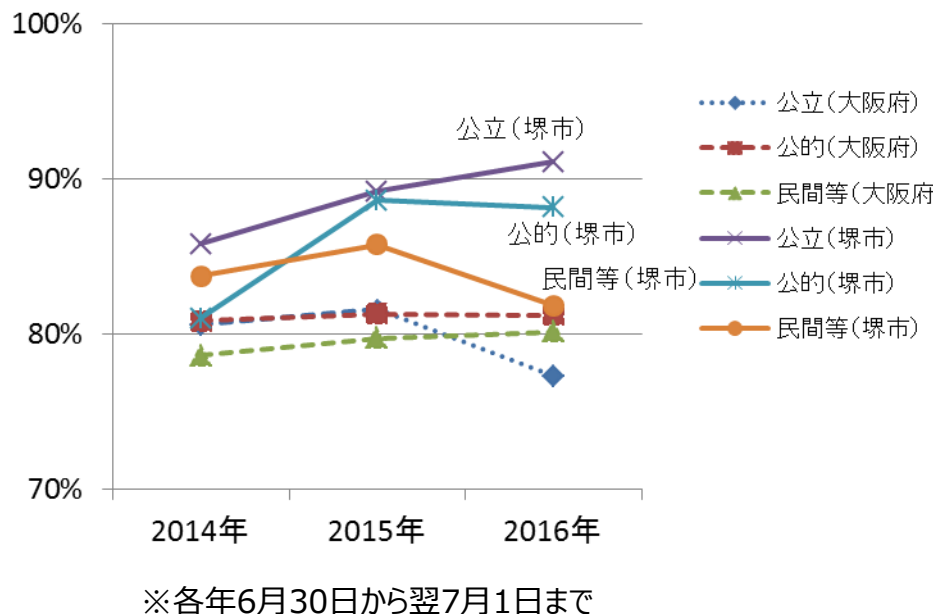
※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。  
 ※ 「周産期母子医療センター」の○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

# 1 堺市二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要②

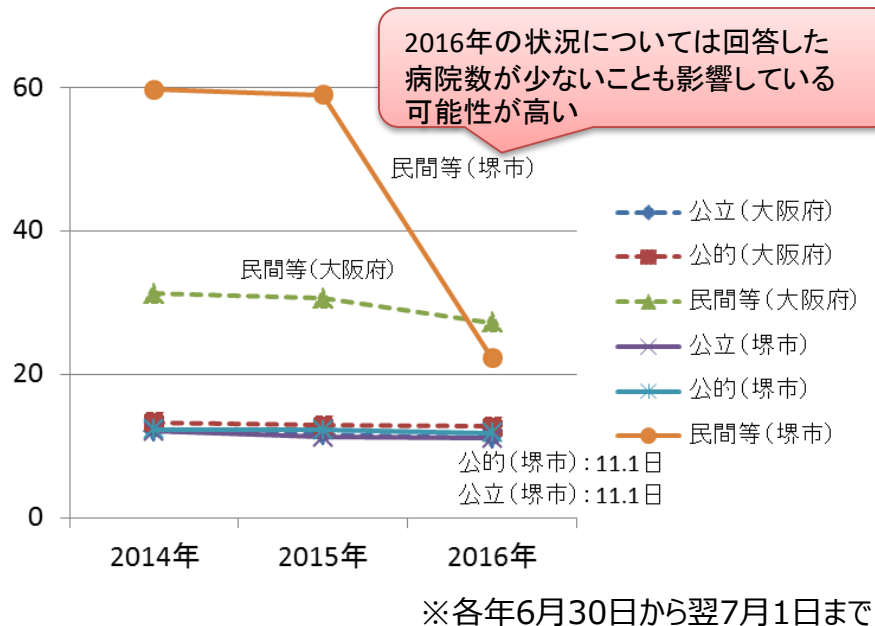
過去3か年に堺市二次医療圏では、病床稼働率は府平均より高い傾向で推移している

## 1 病床の運用状況

● 病床稼働率 (在院患者数、許可病床数から算出)



● 平均在院日数 (在院、新規入院、退院患者数から算出)



参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧 (病院プラン等結果)

## 2 各病院の医療機能一覧(資料2-2 P5)

## 3 各病院の非稼働病床への対応状況一覧(資料2-2 P2)

# 1 堺市二次医療圏の概要 (3) 診療実態の分析の結果①

入院基本料の看護配置が多くなるほど、(重症)急性期と分類される病棟の割合が高くなる

## ●急性期報告 病床数(病院)

	病床数	割合
(重症)急性期	2,547	79.2%
地域急性期	669	20.8%
欠損値	0	
計	3,216	

## ●(参考) 高度急性期報告 病床数 (病院)

	病床数	割合
(重症)急性期	663	94.4%
地域急性期	39	5.6%
欠損値	0	
計	702	

## ●診療報酬別の急性期病床の分析結果

診療報酬別区分	分析病床数					(参考) 不明病床数
	合計	(重症)急性期		地域急性期		
		病床数	割合	病床数	割合	
一般病棟7対1	1,908	1,815	95.1%	93	4.9%	0
一般病棟10対1	853	592	69.4%	261	30.6%	0
一般病棟13対1	160	53	33.1%	107	66.9%	0
一般病棟15対1・特別	113	39	34.5%	74	65.5%	0
小児入院医療管理料	86	48	55.8%	38	44.2%	0
地域包括ケア病棟入院料・入院管理料	55	0	0.0%	55	100.0%	0
緩和ケア病棟入院料	41	0	0.0%	41	100.0%	0
合計	3,216	2,547	79.2%	669	20.8%	0

参照：【資料2-3】病棟ごとの医療機能一覧 (病床機能報告暫定結果)

# 1 堺市二次医療圏の概要 (3) 診療実態の分析の結果②

## 病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、堺市二次医療圏で約7%程度同機能への転換が必要と推計できる

### ● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

(単位:床)

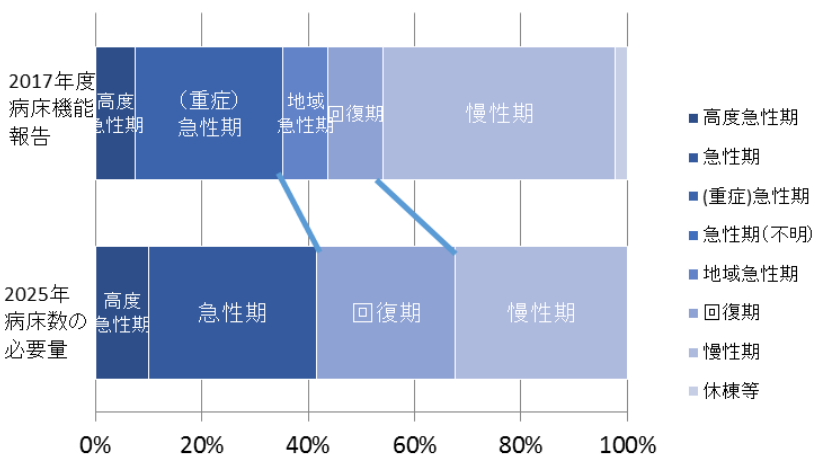
区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
病床数の必要量	2013	861	2,529				1,959	3,947			9,296
病床機能報告	2014	804	3,449				971	3,793	67	472	9,556
病床機能報告	2015	652	3,625				742	3,952	54	528	9,553
病床機能報告	2016	679	3,560				845	4,003	123	256	9,466
病床機能報告	2017	702		2,547	0	780	963	4,018	221	—	9,496
病床数の必要量	2025	991	3,128				2,571	3,202			9,892

合計 3,327

※有床診療所における急性期報告病床は、地域急性期に分類。

### ● 病床機能報告(2017年度)と病床数の必要量(2025年)の割合(少数第2位を四捨五入)の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等
病床機能報告	2017	7.6%		27.6%	0.0%	8.4%	10.4%	43.5%	2.4%	—
病床数の必要量	2025	10.0%	31.6%				26.0%	32.4%		



### サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

#### ① 病床機能報告

地域急性期 + 回復期 18.9%

#### ② 病床数の必要量

回復期 26.0%

割合の差※  
7.1%

※：少数第2位を四捨五入しているため、単純な割合の差とはなっていない。

## 2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (1) 病床の現状

「救命救急入院料・特定集中治療室管理料等」は、人口10万当たりの病床数及び病床稼働率が府平均より低い

### ●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	堺市		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	144床	17床	2,071床	23床
小児入院医療管理料	86床	10床	1,578床	18床
特定機能病院一般病棟入院基本料等	0床	0床	4,945床	56床
一般病棟7対1	2,636床	315床	28,048床	317床
(再掲) 一般病棟7対1【高度急性期での報告】	558床	67床	5,695床	64床
(再掲) 一般病棟7対1【急性期での報告】	1,908床	228床	22,353床	253床
一般病棟10対1	909床	109床	9,147床	103床

### ●病床の利用状況

入院料区分	堺市		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	60.5%	3.3	70.5%	4.7
小児入院医療管理料	76.7%	5.6	74.4%	6.7
特定機能病院一般病棟入院基本料等			80.7%	12.2
一般病棟7対1	85.1%	9.8	82.3%	10.9
(再掲) 一般病棟7対1【高度急性期での報告】	92.9%	10.2	84.8%	8.8
(再掲) 一般病棟7対1【急性期での報告】	87.6%	9.7	81.7%	11.5
一般病棟10対1	74.0%	16.1	75.6%	14.9

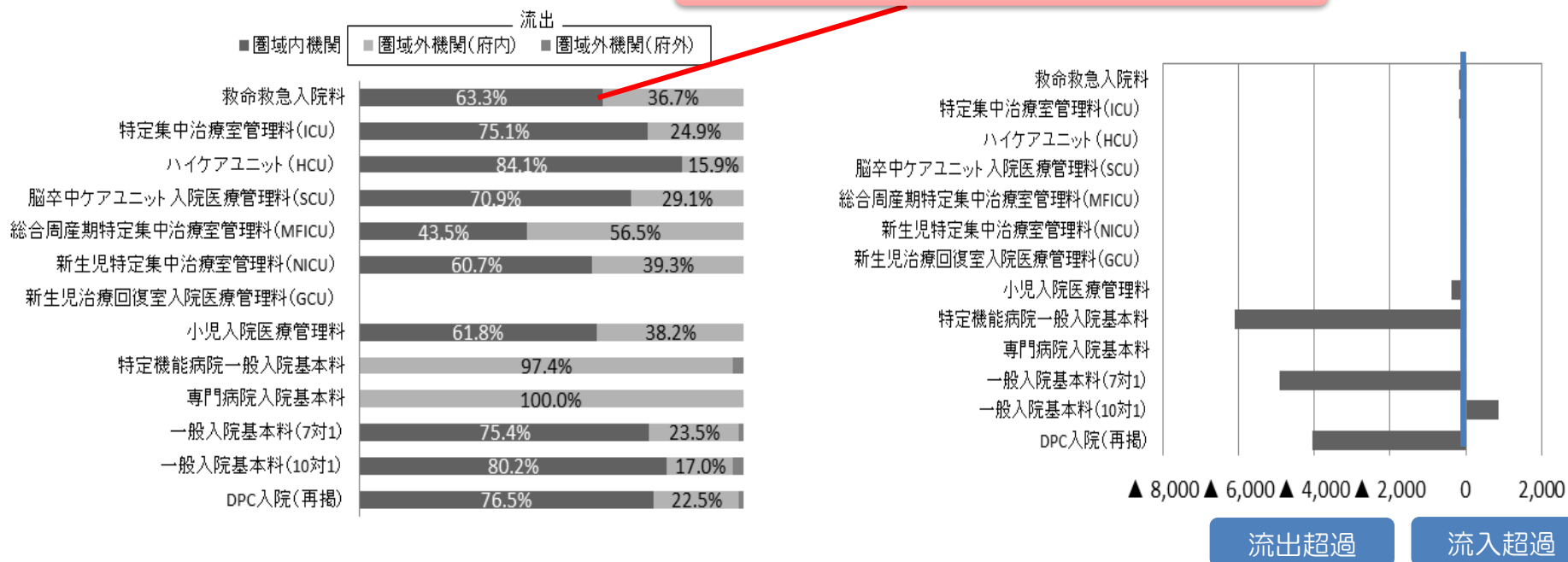


「一般病棟7対1入院基本料」は、流出超過となっているが、自己完結率は、約7割5分と比較的高い値となっている

## 1 入院基本料別の状況

### (1) 患者受療状況

救命救急入院料にかかる自己完結率は「63.3%」

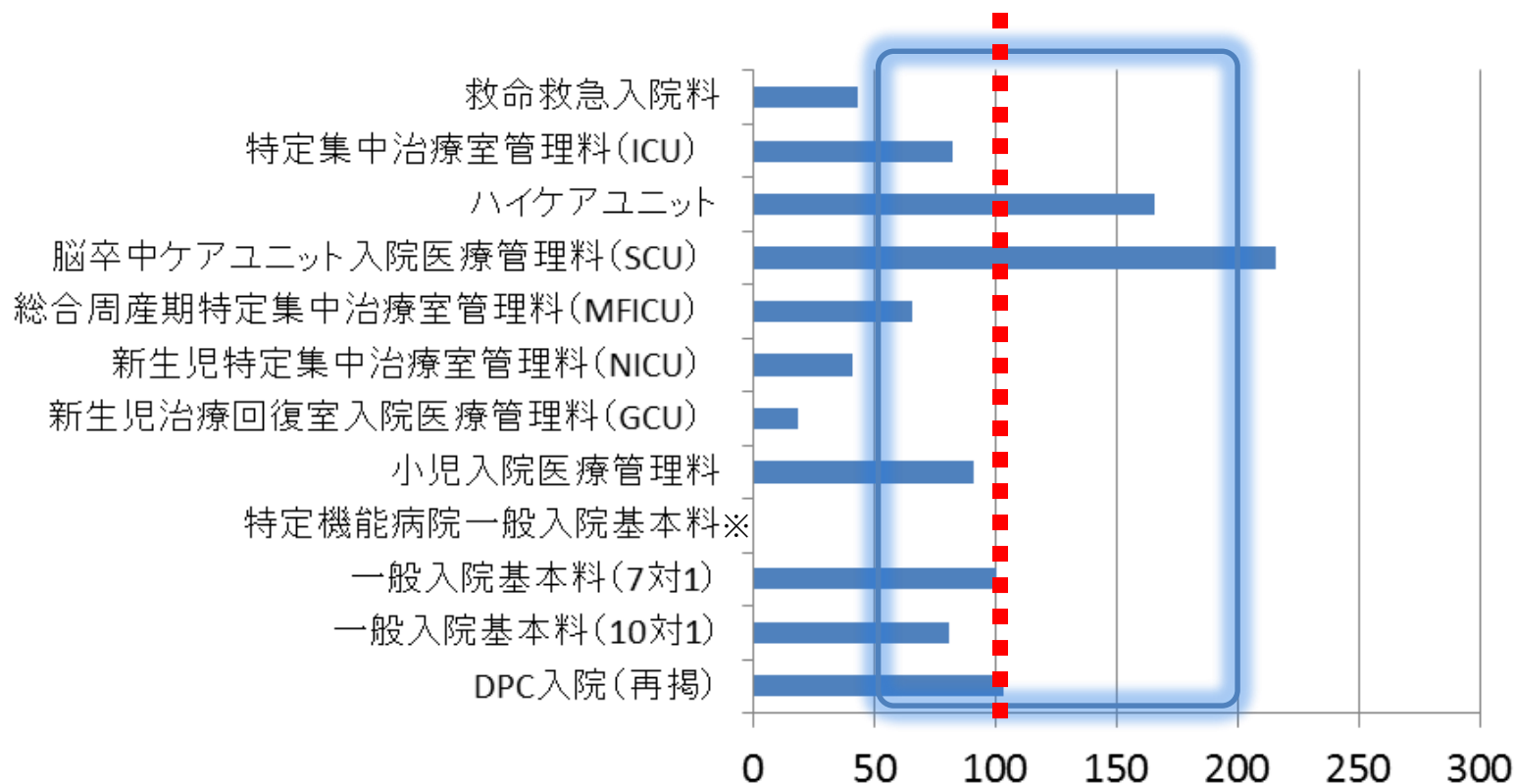


参照：【資料2-4】堺市二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

## 2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ②

多くの入院料は、SCRが50～200の範囲内に含まれるが、一部入院料において50を下回っている

### (2)医療提供状況 (SCR)

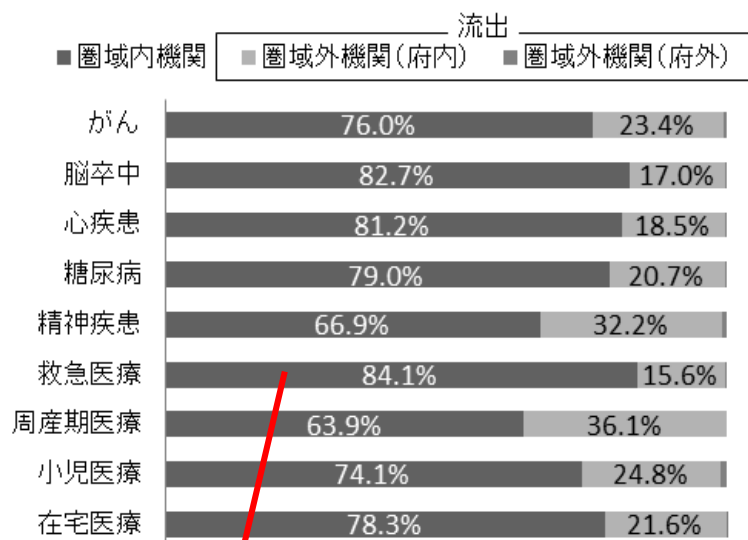


※特定機能病院一般入院基本料は、入院料は、取得している医療機関がないため未算出

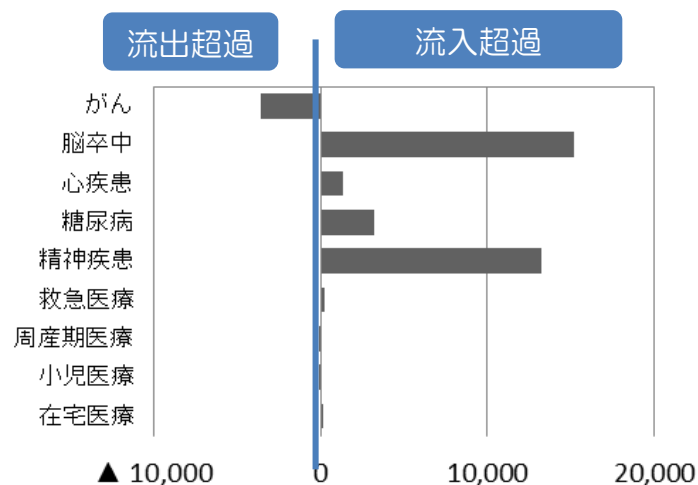
疾病・事業の自己完結率は7割以上がほとんどと比較的高く、がんを除く疾病・事業において、流入超過の傾向が見られる

## 2 5疾病4事業・在宅医療

### (1) 患者受療状況



救急医療にかかる自己完結率は「84.1%」

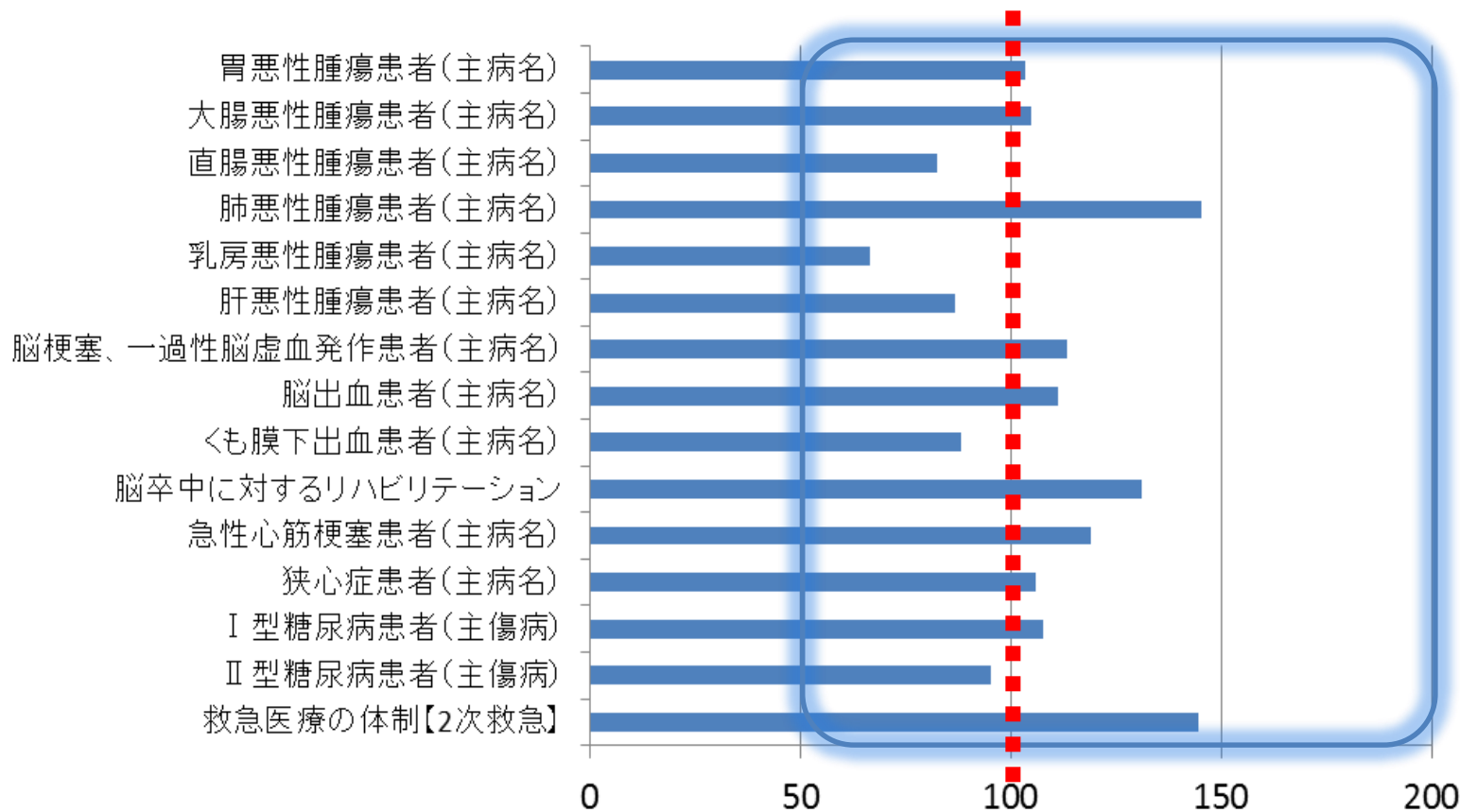


参照：【資料2-4】堺市二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

## 2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ④

多くの疾患は、SCR(50~200)範囲に含まれており、医療提供実績が極端に低い疾患は見受けられない

### (2)医療提供状況 (SCR)

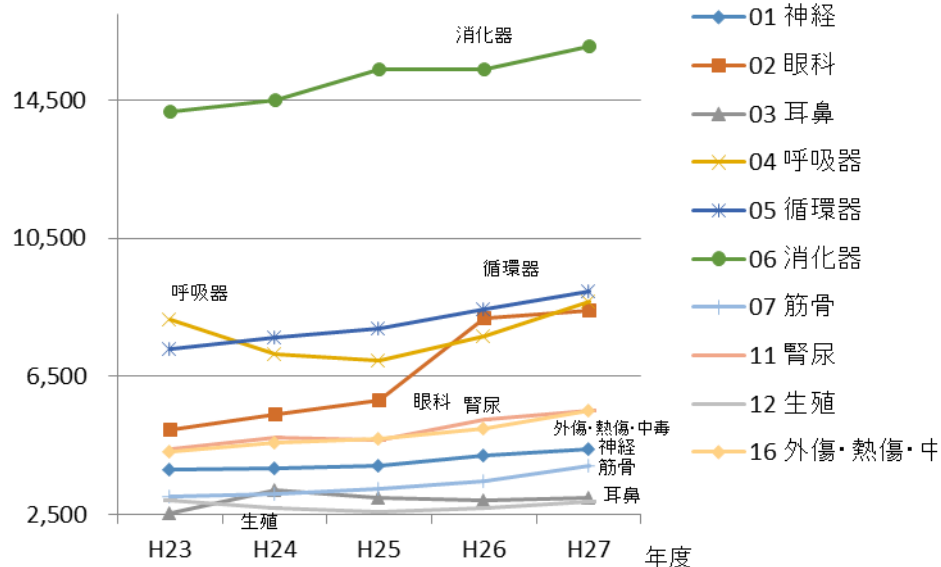


参照：【資料2-5】堺市二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

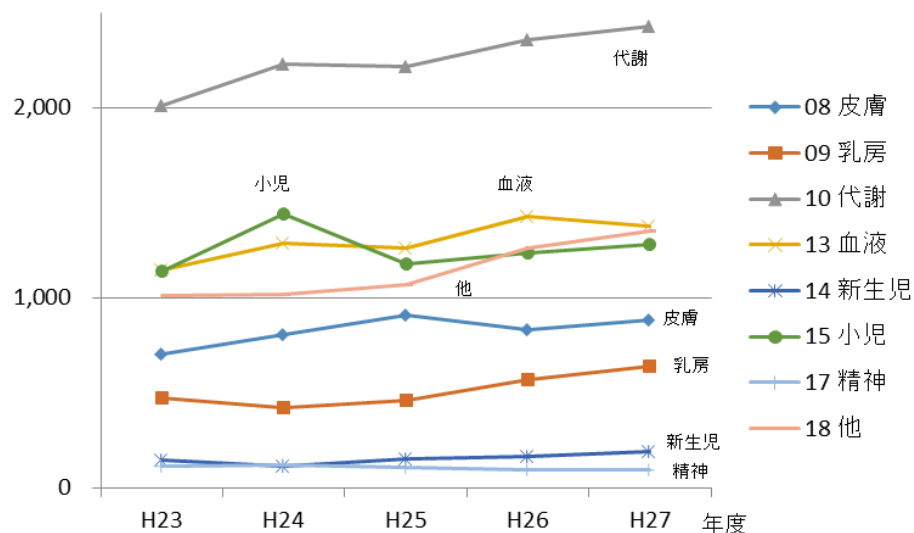
## 2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (3) MDC別診療実績の推移(DPC)

部位別の診療実績から、多くの部位において需要は増加傾向、もしくは横ばいの状態で推移している

● 診療実績2,500件以上



● 診療実績概ね2,500件未満



参照：【資料2-6】DPC参加病院と堺市二次医療圏におけるMDC別診療実績の推移

## 2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (4) 現状と課題のまとめ

○入院料の多くは、

人口10万当たりの病床数について、  
府平均と同程度もしくはやや下回っている。

○今後は、近畿大学医学部附属病院の開設が検討されていることを踏まえ、  
高度急性期から急性期の医療体制の在り方について検討していく  
必要がある。

### 3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (1) 病床の現状

「地域包括ケア病棟入院料等」を除く入院料において、人口10万当たり病床数は府平均を下回っている

#### ●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	堺市		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
一般病棟13対1	160床	19床	2,277床	26床
一般病棟15対1・特別	113床	13床	3,427床	39床
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	319床	38床	2,434床	28床
回復期リハビリテーション病棟入院料	482床	58床	5,912床	67床
緩和ケア病棟入院料	64床	8床	593床	7床

#### ●病床の利用状況

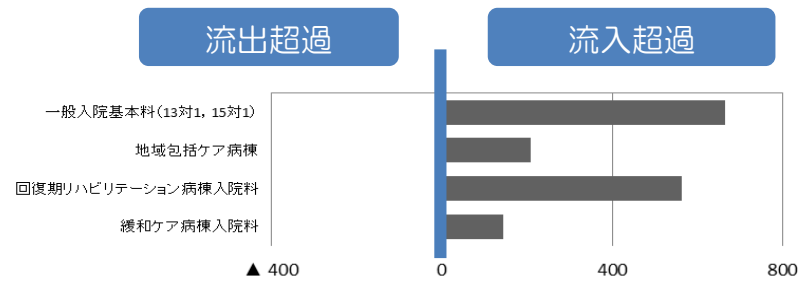
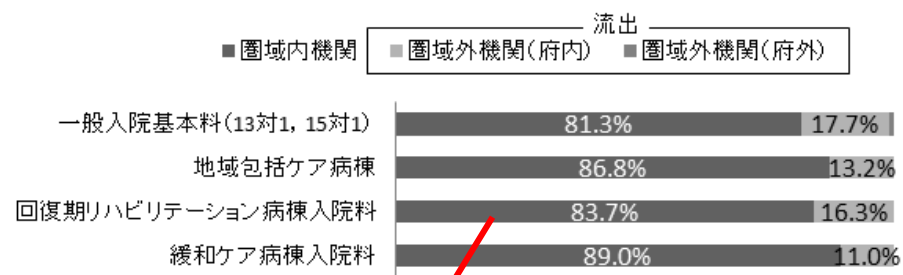
入院料区分	堺市		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
一般病棟13対1	65.9%	20.0	71.4%	21.0
一般病棟15対1・特別	73.8%	35.4	69.3%	35.8
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	63.7%	28.3	77.7%	24.0
回復期リハビリテーション病棟入院料	95.2%	66.7	89.6%	61.4
緩和ケア病棟入院料	80.3%	24.9	70.7%	25.2

### 3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)①

すべての入院料について、自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は8割を超えており、流入超過の傾向が見られる

## ○入院基本料別の状況

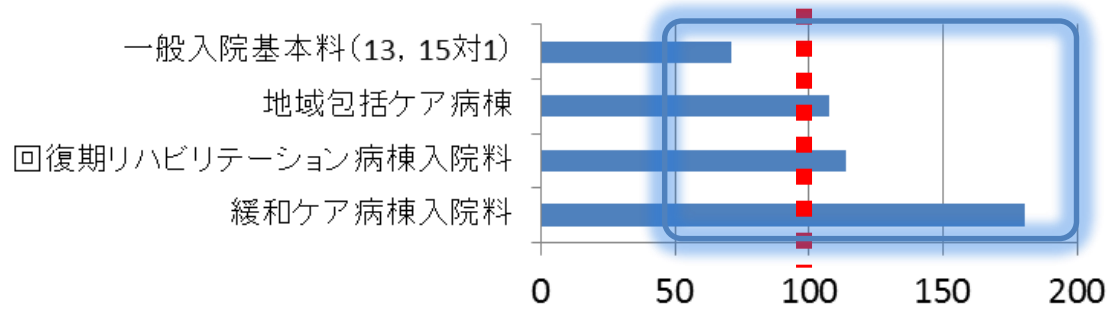
### (1)患者受療状況



回復期リハビリテーション病棟入院料の自己完結率は「83.7%」

参照：【資料2-4】堺市二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

### (2)医療提供状況 (SCR)



参照：【資料2-5】堺市二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

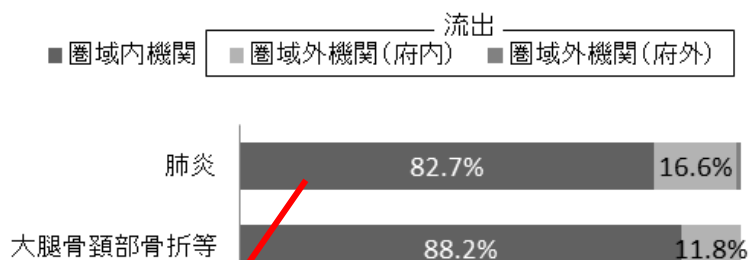


### 3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)②

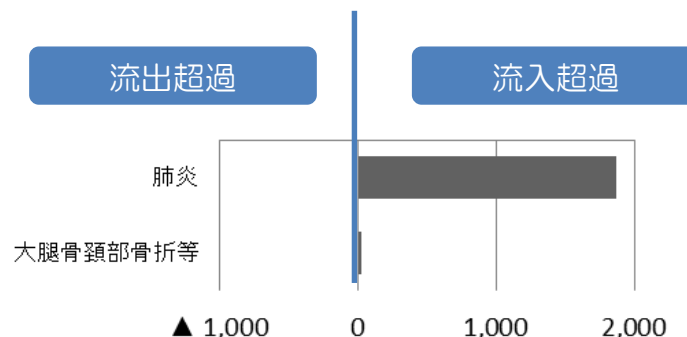
肺炎・大腿骨頸部骨折について、自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は、8割を超えており、また、流入超過の傾向が見られる

## ○肺炎・大腿骨頸部骨折

### (1) 患者受療状況

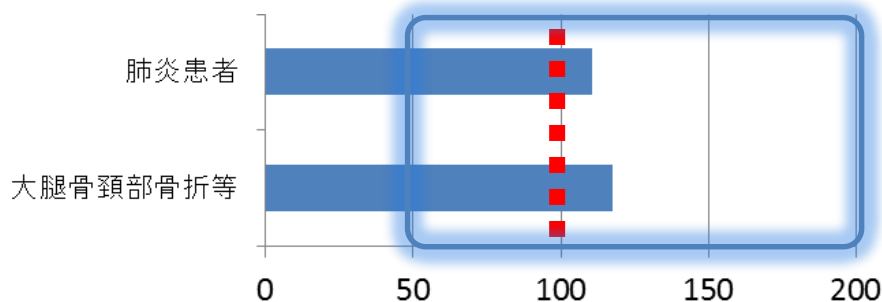


肺炎の自己完結率は「82.7%」



参照：【資料2-4】堺市二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

### (2) 医療提供状況 (SCR)



参照：【資料2-5】堺市二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ)

### 3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (3) 現状と課題のまとめ

○すべての入院料について、

自己完結率は8割を超えており、流入超過となっている。

○しかしながら、「地域包括ケア病棟入院料等」を除く入院料において、人口10万当たり病床数は府平均を下回っている。

## 4 長期療養(慢性期)の概要 (1) 病床の現状

「療養病棟入院基本料1」の人口10万当たりの病床数は、府平均の約2倍と高く、「療養病棟入院基本料2」の病床稼働率は、府平均を下回っている

### ●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	堺市		大阪府	
	病床数	人口10万当たり 病床数	病床数	人口10万当たり 病床数
療養病棟入院基本料1	3106床	371床	14,414床	163床
療養病棟入院基本料2	205床	24床	2,351床	27床
介護療養病床	131床	16床	1,788床	20床
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	695床	83床	5,881床	67床

### ●病床の利用状況

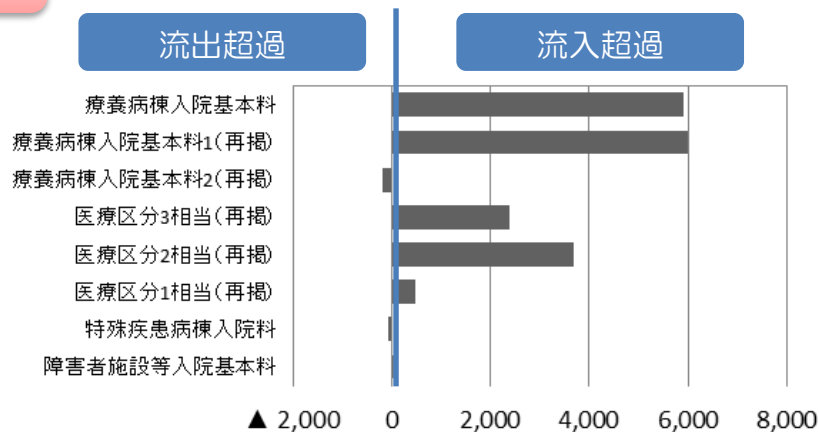
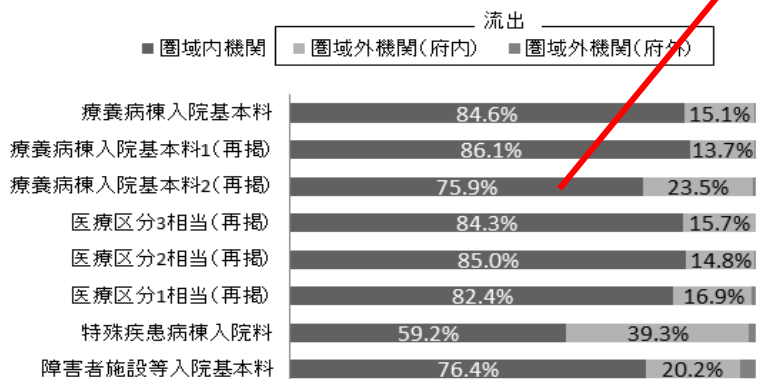
入院料区分	堺市		大阪府	
	病床稼働率	平均在院日数	病床稼働率	平均在院日数
療養病棟入院基本料1	92.3%	220.3	89.6%	219.5
療養病棟入院基本料2	69.3%	232.0	81.3%	203.2
介護療養病床	97.6%	230.0	93.0%	339.0
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	93.3%	102.3	86.7%	95.4

# 4 長期療養(慢性期)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)

多くの入院料において自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は7割を超えており、また多くの入院料で流入超過が見られる

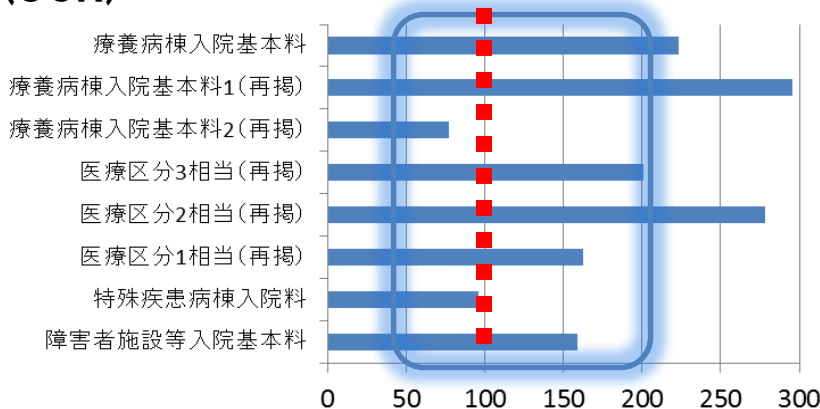
## ○入院基本料別の状況 (1)患者受療状況

療養病棟入院基本料2の自己完結率は「75.9%」



参照：【資料2-4】堺市二次医療圏における患者受療状況 (NDBデータ)

## (2)医療提供状況 (SCR)



参照：【資料2-5】堺市二次医療圏における医療提供状況 (NDBデータ) 20

## 4 長期療養(慢性期)の概要(3) 現状と課題のまとめ

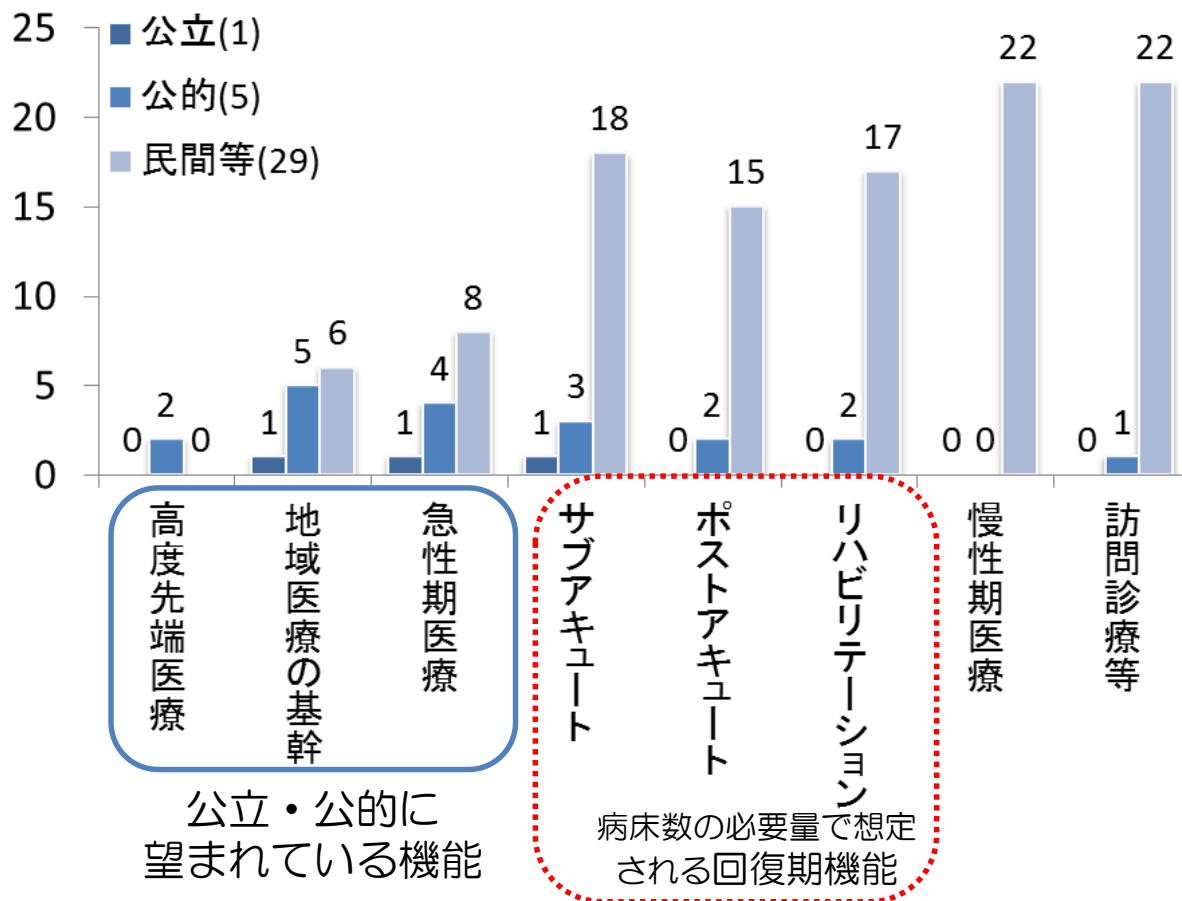
○多くの入院料において、自己完結率が高く、流入超過の状況である。

○今後の需要に対応した病床機能分化を図っていくには、療養病床の介護施設への転換の状況にも留意しながら、検討していく必要がある。

# 5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能①

回復期や慢性期、訪問診療等は多くの民間医療機関が、担っていききたいと考えている

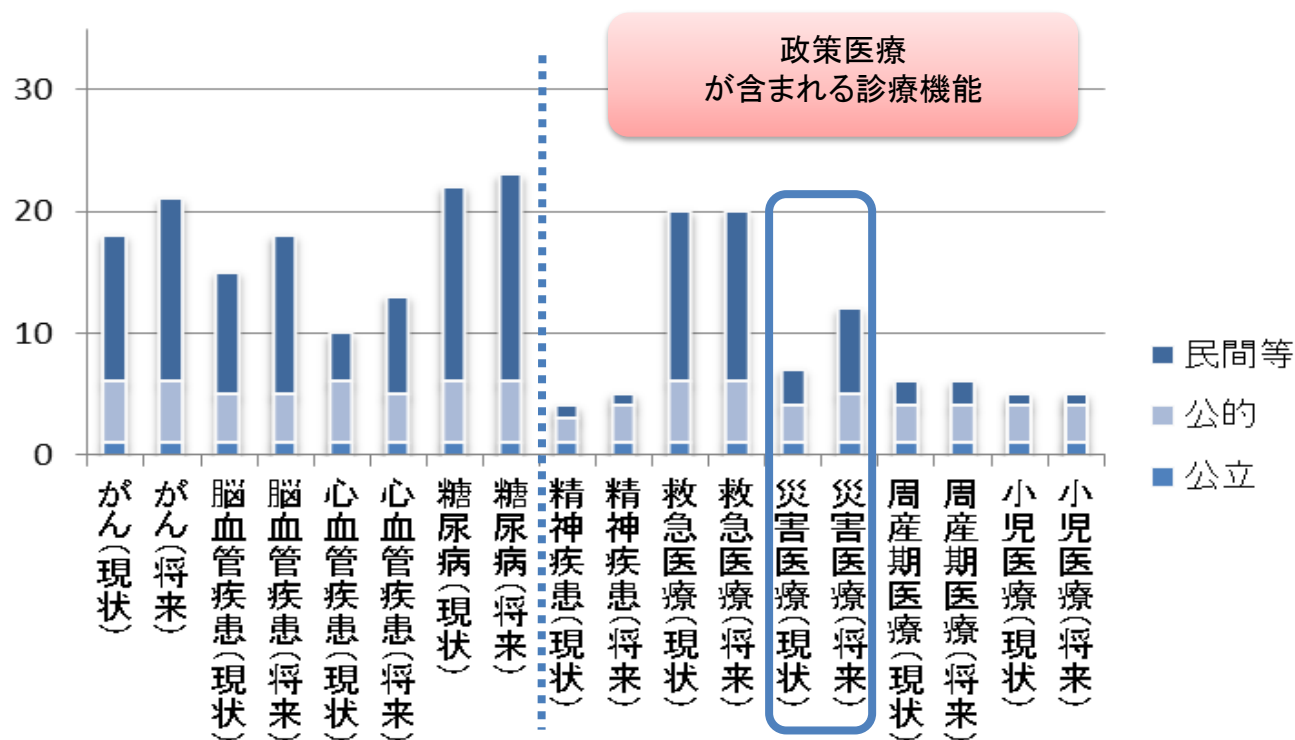
## 1 病院自身が将来担うべきと回答している病床機能



## 5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能②

災害医療等の政策医療が含まれる診療機能について、公的と民間等の医療機関が、現状よりも将来担うべきと回答した医療機関数が多い

### 2 将来担うべきと回答している診療機能と現状との比較※



※「現状」は、第7次大阪府医療計画の策定にあたり、医療機能情報提供制度に係る医療機関調査等の結果をとりまとめたもの。  
「将来」は、特に定義を定めていないため、比較には留意が必要。

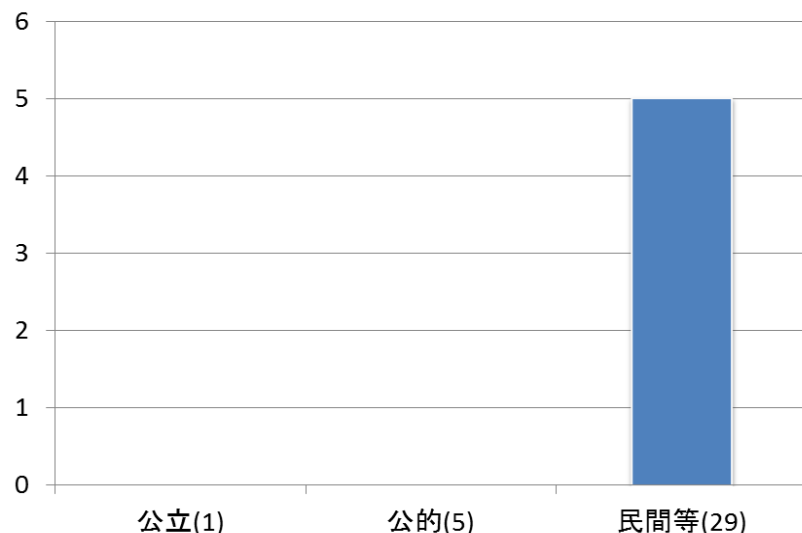
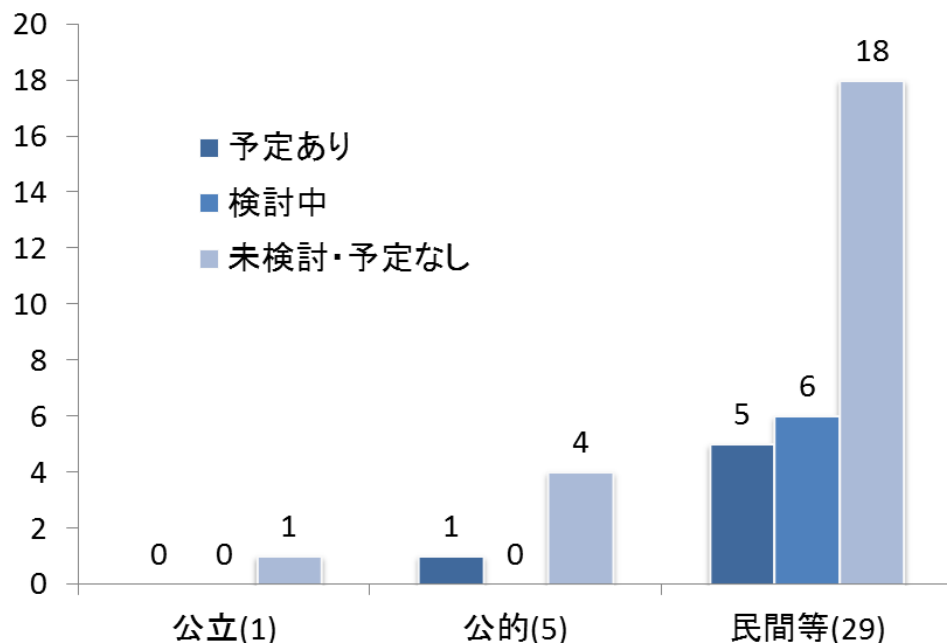
## 5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能③

2025年に向けた病床機能・病床数の変更等について、4割弱の民間等において、予定あり、もしくは検討中となっている

### 3 2025年に向けた各病院のプランのまとめ

● 2025年に向けた病床機能・病床数等の変更予定の有無

● 地域医療介護総合確保基金（病床転換に対する一部経費の補助金）の活用の希望



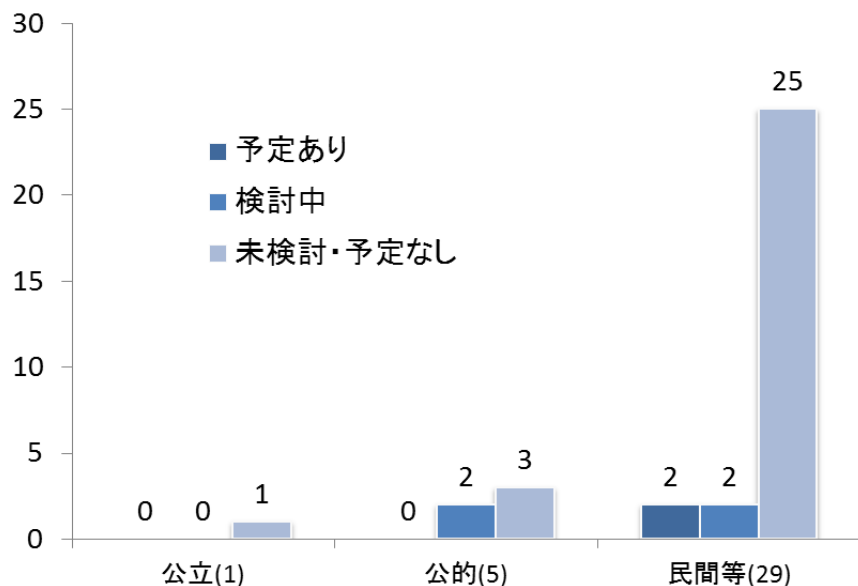
参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）



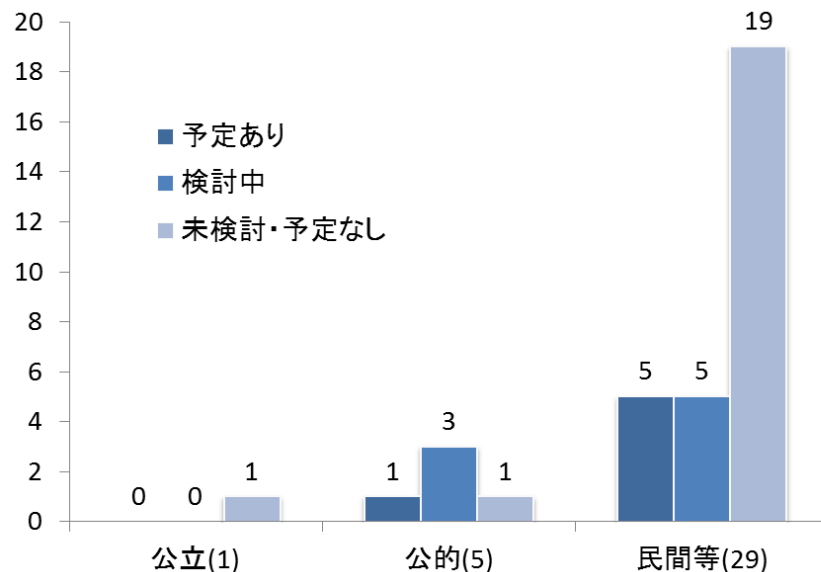
# 5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能④

4割の医療機関において、2025年に向けた建物・設備の整備・改修について、予定があるか、検討中となっている

● 2025年に向けた診療科の見直しの予定の有無



● 2025年に向けた建物・設備の整備・改修予定の有無



参照：【資料2-2】病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）

## 4 2025年までに各病院が検討している医療機能(資料2-2 P6)・病床機能(資料2-2 P13,P14,P15)一覧

## 5 将来のあるべき医療体制に向けて（1）2025年に各病院が検討している医療機能・病床機能のまとめ

- 急性期医療等は公立・公的のほとんどと民間等の一部が将来担おうと考えており、回復期以降は民間等の多くが将来担おうと考えている。
- 災害医療を将来担おうと考えている民間病院数は、比較的多い。
- 病床機能・病床数等の変更の予定が、「予定あり」又は「検討中」と回答している病院の多くは、建物・設備の整備・改修について「予定あり」又は「検討中」と回答している。

# 5 将来のあるべき医療体制に向けて (2) 目標とする指標(案)

## 1 2025年に向け回復期(サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ)機能への転換が必要と考えられる病床(暫定値)

